

令和7年度 学校評価のまとめ ( R 8. 2 )

【評価基準 A : すべて 3,0 以上、 B : 2,5 以上がある、 C : 2,5 以下がある】

松前町立北伊予中学校

重点目標	評価結果						考察と課題、今後の方策
	中間値 2.5 最高値 4.0						
	よい . . . . . 4点	ややよい . . . . . 3点					
	ややよくない . . . . . 2点						
<b>1 確かな学力の定着・向上</b>  ・教育課程の円滑な実施 ・研修の充実 ・授業改善の推進 (よく考えよく表現する) ・個別指導の充実 ・学習習慣の確立	項目	教職	生徒	保護	地域	評価	○ 学習習慣の確立において、自主学習ノート (Self-study Note!) の活用を全学年で行っている。成果として、家庭学習への動機付けや学習機会の確保、学習時間の増加につながった。 ○ 個別指導の充実において、放課後に補充学習を実施したり、朝の自主学習に、基礎学力の向上を目指して、漢字・計算・英単語のドリル学習をしたりしている。 ○ 授業改善の推進において、学習課題の設定、振り返りの実施、ICT機器の活用や話し合い活動の充実を意識して行っている。生徒が、よく考えたことを、自分の意見としてよく表現できるよう、今後も改善し続けていく必要がある。
	教育課程 教③	3.6				A	
	研修 教⑥⑦	3.2				A	
	授業改善 教⑧ 生①② 保⑪	3.1	3.4	2.9		B	
	個別指導 教⑨ 生③④ 保⑫	3.4	3.3	2.9		B	
	学習習慣 教⑩ 生⑤⑥ 保⑬	2.8	3.4	2.9		B	
<b>2 豊かな心の育成</b>  ・自主性を育む生徒会活動 ・感動のある行事 ・道徳の時間の充実 ・学級の時間の充実 ・人権・同和教育の充実		教職	生徒	保護	地域	評価	○ 生徒集会などを通して、生徒が主体となって充実した生徒会活動を行うことができた。また、よりよい学校にしていくための学級生徒会などでの話し合い活動を通して、合意形成の場をつくることができた。 ● 全校生徒が生徒会の一員であることへの意識が低いように感じた。見通しを持って集会の計画や日々の活動、活動後の振り返りなどを行うことでさらに話し合いが深まると感じた。 ○ 道徳教育については、各学年が共通理解を図り、授業を進めることができた。今後は、より道徳的価値への理解を深め、行動に移せる生徒に育てたい。 ○ 人権・同和教育の一環として、ハンセン病問題を取り扱った。どの人権問題も根本は同じなので、来年度は実践力を鍛え、人権問題に対する行動力と課題解決力を養いたい。
	生徒会活動 教⑪ 生⑦	3.1	3.5			A	
	学校行事 教⑫ 生⑧ 保⑭	3.5	3.7	3.3		A	
	道徳教育 教⑬ 生⑨ 保⑮ 地②	3.2	3.6	3.3	3.5	A	
	学級活動 教⑭ 生⑩⑪⑫	3.4	3.4			A	
	人権同和教育 教⑮ 生⑬⑭⑮	3.2	3.4			A	
<b>3 生徒指導の充実 (健やかな体)</b>  ・生徒理解 ・保護者との信頼関係 ・いじめ・不登校の解消 ・清掃指導 ・あいさつ励行 ・交通安全指導 ・望ましい生活習慣		教職	生徒	保護	地域	評価	○ いじめや不登校の問題に対し、未然防止、早期発見・早期対応を基本とし、密な情報交換、共通理解のもと取り組んできた。また、今年度5月からサポートルームを開設した。今後サポートルームの在り方など、充実した支援になるよう、誰もが安心して過ごせる学校環境を作っていきたい。 ● 学級担任を中心に、日々の学校生活の中のコミュニケーションを大切にし、生徒理解に努めてきたが、アンケート結果から、生徒にうまく伝わっていなかったり、不十分な面もあったりすることが分かった。不登校等対策非常勤講師、スクールカウンセラー、ハートなんでも相談員等、各担当者の専門性を生かし、連携を深めながら生徒の個別支援を図るとともに、様々な相談機関との連携も図りながら、生徒の心のサポートを充実させたい。
	生徒理解 教⑯ 生⑯	3.5	2.9			B	
	保護者信頼 教⑰ 保⑱⑲	3.5		3.2		A	
	いじめ・不登校 教⑳ 保㉑	3.4		3.0		A	
	清掃指導 教㉒ 生㉓	3.4	3.7			A	
	挨拶 教㉔ 生㉕ 保㉖ 地㉗	3.5	3.5	3.2	3.7	A	
	交通安全 教㉘ 生㉙ 保㉚ 地㉛	3.3	3.8	3.4	3.4	A	
	生活習慣 生㉜ 保㉝㉞		3.4	3.1		A	
	部活動 教㉟ 生㊱ 保㊲ 地㊳	3.3	3.9	3.3	3.8	A	

重点目標	評価結果 中間値 2.5 最高値 4.0						考察と課題、今後の方策
	よい・・・4点 ややよくない・・・2点		ややよい・・・3点 よくない・・・1点				
4 教育目標 ・信頼される学校づくり ・家庭・地域との連携 ・教育目標 ・家庭地域との連携と信頼 ・P T A活動との連携 ・情報発信、受信 ・地域活動への参加 ・学校評価	項目	教職	生徒	保護	地域	評価	○ 昨年度に比べ教職員の数値が上がっている。「信頼される学校づくり」に向けて丁寧な情報の提供を引き続きしていきたい。 ● 地域行事への参加については、その都度呼び掛けを行っている。生徒たちの参加状況も概ね良いとみている。教職員の参加については、働き方改革の観点から強制は出来ないが、地域を知ろうとする姿勢は持っておきたいと考える。
	目標 教①②	3.7				A	
	連携信頼教④⑤保⑧⑨地⑤⑥	3.5		3.2	3.5	A	
	P T A活動 教⑭	3.3				A	
	情報発受信 教⑳ 保㉑地㉒	3.1		3.2	3.5	A	
	地域活動 教㉓	3.5				A	
5 服務等 ・明るい職場 ・資質の向上 ・報・連・相、協働態勢 ・教育公務員の自覚		教職	生徒	保護	地域	評定	○ 各項目昨年と比較して、0.1～0.2ポイントの上昇である。行事等で忙殺される毎日であるが、校長先生をはじめとして明るい職場づくりができています。 ○ 教育校務員の自覚としては、今後とも綱紀の粛正に心掛け、常に襟を正して職務に専念していきたい。
	明るい職場 教㉔	3.4				A	
	資質向上 教㉕	3.4				A	
	協働態勢 教㉖	3.5				A	
	公務員自覚 教㉗	3.5				A	
6 働き方改革 ・ゆとりのある職場 ・業務の負担軽減		教職	生徒	保護	地域		○ 今年度からの新しい項目である。単なる勤務時間の短縮のみならず業務改善に注力した働き方改革の推進に努めたい。
	ゆとり 教㉘	3.3					
	負担軽減 教㉙	3.2					
7 管理等 ・施設設備の安全管理充実 ・文書処理 ・情報管理 ・会計管理 ・校務分掌の適正化		教職	生徒	保護	地域	評定	○ 例年低かった「校務分掌」については、0.8ポイント上昇した。構成メンバーが異なるため、単純な比較はできないが今年度の特筆項目と言える。今年度の課題を通して、来年度につながる校務分掌を年度当初にしっかりと議論して考えていきたい。
	施設設備 教㉚㉛㉜	3.1				A	
	文書管理 教㉝	3.2				A	
	情報管理 教㉞	3.4				A	
	会計管理 教㉟	3.4				A	
	校務分掌 教㊱	3.4				A	
全体のまとめ	<p>「真実を求め 希望に生き 実行に徹せよ」の校訓、また、「心豊かで、活力に満ちた実践力のある生徒の育成」の教育目標のもと、「愛顔」と「感動」のある学校づくりを目指している。昨年度に比べ、教職員の評価が全体的に高くなったことは、昨年度の反省を踏まえて校務分掌を改善したり、「心が動く授業」「心が躍る学校」「心を守る教育」を目指して、教職員が努力・実践したりしたことが成果となって表れてきたためと考える。</p> <p>今後の課題としては、①学習習慣の確立と基礎学力の向上。②ICT機器の効果的な活用。③生徒会活動、道徳教育、人権・同和教育による情操教育の充実。④生徒理解と信頼関係作りの更なる進展と不登校生徒への適切な対応⑤挨拶、清掃、交通安全指導の徹底⑥地域との連携、信頼関係の継続。などが挙げられる。課題解決のための明確な目標を設定し、その目標の達成に向けた計画を立て、実践していきたい。</p>						